

◆平成21年◆

第五回

熊本城 城下町 坪井川

精霊流し

四年前の7月15日、戦後60年の節目に、市民団体のボランティア、地域の団体、市民の協力で、熊本城の精霊流しが行われました。約四百年前の加藤清正による白川、坪井川の大改修で、熊本城の築城が完了したことを記念して、多くの人々と共有する行事として実施されました。かつて城下町を流れる坪井川では、瀬と淵を繰り返す川の流れが、子どもたちが水遊びに興じていました。夏になると川面には、精霊流しの光が揺らめき、人々は静かに祈りを捧げ、心を込めてきました。



市民ボランティア募集!

この精霊流しは、多くの市民ボランティアで運営しています。いっしょに精霊流しのお手伝いをしてみませんか? 下記精霊流し市民の会まで、お気軽にご連絡ください。



7.15(水) 天候・水位によって、中止される場合がありますので、ご了承下さい。

精霊舟を流される方(午後7:30より先着順にお流しします)

◆受付:長塙前会場(詳細は裏面地図をご参照ください。小雨時は異なります)

午後5:00-午後8:00

◆お見送り場所:熊本城長塙対岸遊歩道

◆回収費:1基につき500円 ◆灯ろう代:1基500円

お申込みは、当日受付会場に直接お越しください。回収は主催者にて行います。

当日は、先着順となりますので、お急ぎの方はお早めにお越し下さい。※見学のみは無料です。

★精霊舟のサイズ

精霊舟のサイズにつきましては、坪井川の河川環境への配慮及びスタッフの安全上、全長1m以内が望ましいと思われまます。ご協力よろしくお願ひいたします。

★お供え物に関して

精霊舟に乗せられるお供え物は河川環境への配慮、又舟のスムーズな流れの面で出来る限り少量にてお願ひいたします。

《お申込み・お問合せ》

熊本城 城下町精霊流し市民の会 TEL 096-354-6083 FAX 096-356-5425 荒井まで
ブログ <http://shourounagasi.otemo-yan.net/> メール shourounagasi@ymail.plala.or.jp

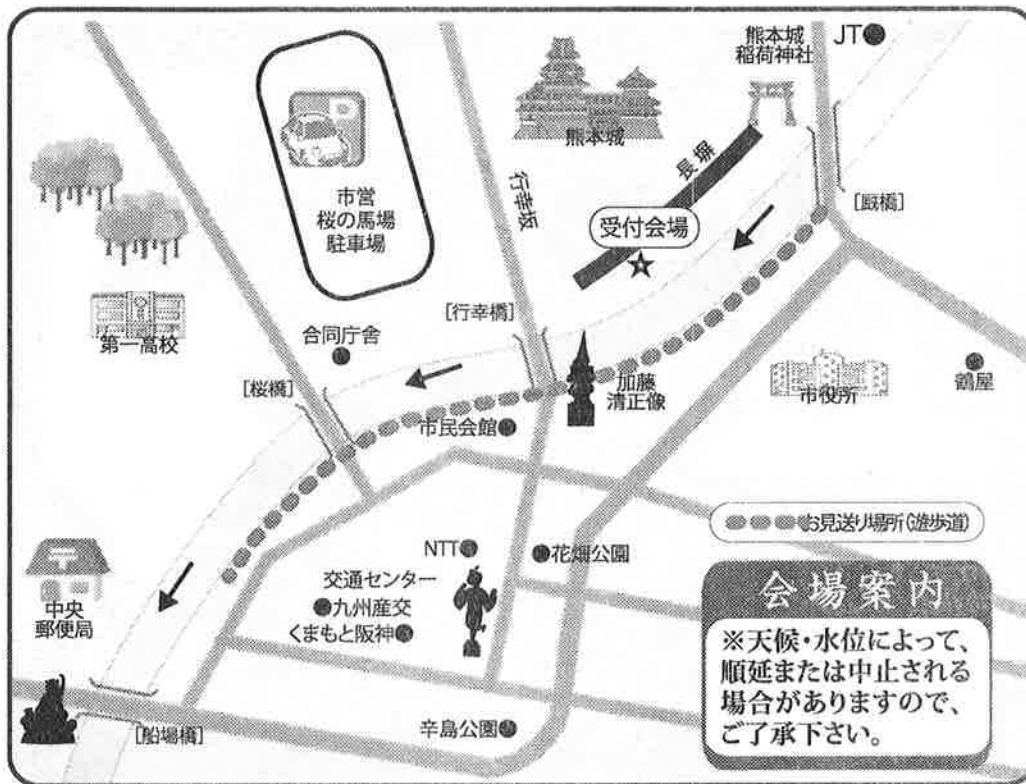
主催/熊本城 城下町精霊流し市民の会 共催/熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部
後援/春日校区自治会連合会 壺川校区自治会連合会 五福校区自治会連合会 一新校区自治会連合会 慶徳校区一町内自治会
熊本市消防団慶徳15分団・一新38分団 一新まちづくりの会 一新地域商店会連絡協議会 桜町繁栄会 新町青年会新風連
熊本城下のまちづくり協議会桜町地区会議 熊本市中心商店街等連絡協議会 熊本まちなみトラスト あなたの町の郵便局

【特別協賛】九州産業交通ホールディングス㈱ (医)愛育会福田病院 ㈱県民百貨店くまもと阪神
 ㈱NTT西日本熊本支店 ㈱鶴屋百貨店 西田鉄工㈱

【協賛】 ㈱岩田コーポレーション ㈱熊本ホテルキャッスル 熊本商工会議所 熊本地名研究会
 (有)呉服の美都 桜町繁栄会 城見櫓 センタープラザテナント会 添島歯科医院
 日本たばこ産業㈱熊本支店 玩具問屋 むろや (有)利久堂 (有)りぶ・ぐりーん自然庵

荒井恭子 石原靖也 木野本新一 小寺一敏 佐藤哲夫 谷脇美代子 反後人美 西嶋多美子
 西嶋公一 葉山栄司 益雪シズエ 村上輝和 柳原信子 山田稔

【協力】 ㈱ハウスレッシュ あなたの町の郵便局 熊本中央郵便局 サンロード新市街 添島歯科医院
 日本たばこ産業㈱熊本支店 山本建設㈱ (有)利久堂



精霊舟は受付後、待機中のボランティアスタッフのところまでお持ちください。順番に、お流しいたします。

(精霊舟の内容物が多く、流すのが困難と思われる場合は、調整させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。)

【駐車場のご案内】

お車でご越しの際は、市営桜の馬場駐車場をご利用ください。
 (160台収容可能、午後11時まで営業)

熊本城下町「精霊流し」今昔

しんこうりゅうし

熊本市内では、昭和五十年代の記述によると一般の各家庭で行われていたお盆の行事は、七月十三日にお墓参りをして花を供え、その日の夕方仏壇に団子を供えて精霊迎えをし、翌十四日には、料理を仏壇に供え、十五日の夜遅くに送り団子を供え、ほかのお供え物と一緒にワラツトや芋の葉に包んで川に流し、精霊送りをしていたようです。また、この各家庭のお盆の行事の準備のために、十二日の夜からは、長八橋一帯に精霊市が立ち、青栗や唐きびなど季節のものをこまぎれにして、蓮の葉に包んで売られ、「揃いました、揃いました」というかけ声から、市そのものも「ソロイマシタ」と呼ばれ、大変な賑わいを見せていたそうです。小説の中にも、さまざまに凝った装飾が施された精霊舟がケンを競い、商家の主人の精霊舟に従って喪の正装をした芸者衆が三味線を響かせながら下っていくという記述も見られます。



〈参考資料〉
 熊本市史 民俗文化編
 熊本市内の年中行事調査(教育委員会)
 小説 いつまで草(福島次郎)